

【例題－心理2】

知能に関する理論を提唱したスピアマン (Spearman, C.E.) についての記述として妥当なのはどれか。

1. 知能テストの結果について因子分析を行い、知能は「言語理解」、「空間」、「数」など7種類の異なる基本的精神能力の因子から成ると主張した。
2. 種々の知能検査間に見られる相関関係の分析をもとに、知能はあらゆる知的活動に共通して作用する一般知能因子と、それぞれの知的活動に固有な特殊因子の2種の因子で構成されていると主張した。
3. 知能テストの因子分析の結果から、複数の因子の上に二次因子として流動性知能と結晶性知能を仮定し、知能はこれら二次因子の共通性を説明するさらに上位の一般因子を頂点とした階層構造として表現されるとした。
4. 知能理論には、それを支えるコンポーネント理論、経験理論、文脈理論の三つの下位理論があるとし、それぞれがさらに下位の理論に分かれるという階層的理論体系を提唱した。
5. 従来の知能理論に音楽やスポーツなど芸術・表現領域の知能や、自己と他者の理解という対人的知能を加える重要性を指摘し、多重知能理論を提唱した。

(正答) 2